

## 2020年度 卒業生の上司による評価 概要

本学は、2012年に開学して今年は9年目を迎える。これまで5回の卒業生を輩出し、その総数は400名程度となっている。毎年、卒業生の約70～80%が亀田総合病院に就職しており、現在も約250人程が当院で働いているため、2020年10月に、亀田総合病院の卒業生配属部署に関連する看護師長43名に卒業生の評価に対するアンケート調査を行った。その結果、40名の師長から回答が寄せられた。

調査内容では、本学の卒業時到達目標である9項目（①教養教育で培う普遍的基礎能力、②リーダーシップ能力、③根拠に基づいた看護実践能力、④テクノロジー活用能力、⑤医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、⑥ヘルスプロモーションと予防の実践能力、⑦国際的視野の育成と地域貢献能力、⑧生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力、⑨あらゆる対象に向けた包括的看護実践能力）に対して「よく活かされている：5点」～「全く活かされていない：1点」の5段階評価で回答を求めた。その結果、9項目の平均点は、2.79点であり、「どちらともいえない：3点」～「あまり活かされていない：2点」の間に属する点数であった。特に「国際的視野の育成と地域貢献力」は平均点2.48と低く、また、「質の高いケアを実践するためのリーダーシップ」は2.58点であった。その他の7項目は、2.70以上であった。前者の「国際的視野の育成と地域貢献力」は、南房総という地域的な状況から見て、そのような活動の場がそう多くはないこと、総合病院という施設内看護に重きを置いた業務が多いこと等による結果と思われる。また、リーダーシップについては、卒業後5年目が卒業生の最高年次で、3年目以下の独り立ちする前の卒業生も多く、リーダーシップを発揮するような場面に遭遇することが少ない状況であるための結果と考えられる。以上の卒業時到達目標9項目に関する結果を勘案すると、卒業年次の経過が若い現段階としては相応の結果と考えられ、今後に期待できる状況と判断できる。

また、本学の卒業生の長所について、各人に3項目程度を列挙してもらうよう求めたところ、90件の回答が得られ、その内容では、学習意欲が高く、論理的思考に比較的長じており、文章力、コミュニケーション能力、看護実践力などの強みがあることが記載されていた。また、その反対の短所についても、各人の記述による3項目程度を求め、合計79件が得られた。それらは、リーダーシップや看護技術などの看護実践力、コミュニケーション能力、態度・行動や社会性についての記載が多かった。

看護実践力やコミュニケーション能力については、長所にも短所にもその内容が記載されており、両極端の多様な卒業生の存在を示していると考えられる。学習意欲や論理的思考は長所であるが、態度・行動など、社会性に問題があると評価される人も多いということが結果といえる。

更に、本学の教育に対する今後への期待として自由記述を求めたところ、その回答内容では、社会人としての基本的教育に対する要望、対人関係の能力、看護技術の向上など多様な意見が31件あった。以上は、短所を補う今後の教育が期待され、5年目という卒業生の経過からは、これからの期待できる側面も多々あることがわかった。

今回の調査は、第1回目の試みとして、5年間の卒業生全般に対する全体的イメージとしての見解を求めた調査であった。このことは、回答者にとっては目の前にいる卒業生ではなく、漠然とした対象をイメージして回答することの難しさとして、多くの意見が出された。今後の調査では、卒業年数を特定して調査する等、できるだけ正確な結果を得られるような方法の工夫がぜひとも必要である。また、今後の調査においては、調査範囲を卒業生の進路に応じて、幅広く活動分野の実態を把握できるように、考慮することが課題である。